

令和7年11月21日

石巻市議会議長 遠 藤 宏 昭 殿

会 派 名 石巻市民クラブ
代表者氏名 会長 大 森 秀 一

調査報告書

調査した概要は次のとおりであります。

記

1 調査者氏名 大森秀一、高橋憲悦

2 調査期間 令和7年11月11日から
令和7年11月14日まで 4日間

3 調査地及び調査内容

(1) 大分県日田市

・林業、木材産業の振興について

(2) 熊本県宇城市

・不知火美術館・図書館リニューアル事業について

(3) 鹿児島県枕崎市

・水産振興について

4 目的

(1) 大分県日田市

・林業、木材産業の振興について

本市域の約55%が森林であり、今後の林業振興を発展させるだけでなく多面的機能を有する森林を守ることが不可欠である。

市域の83%を森林が占めている日田市は、林業や木材産業が基幹産業として発展してきた歴史があり、今後の持続的な林業・産業の発展、森林資源の循環利用を促進するため、「森林・林業・木材産業振興ビジョン」を策定し、災害に強い森林づくりや人工林の適正

管理、木材の販路拡大・販売促進の強化などに取り組んでいる。

先進地である大分県日田市を視察研修し、当該事業の内容と成果、課題について調査を行い、今後の本市の市政運営に参考にするものである。

（2）熊本県宇城市

・不知火美術館・図書館リニューアル事業について

本市図書館は老朽化が進み、市議会一般質問等で新図書館建設が話題となり、陸上競技場建設と並び市民要望が高まっている。

宇城市の「不知火美術館・図書館」は、令和3年から施設設備の更新を含め、リニューアル工事を行い、令和4年4月に完成した。カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（C C C）が管理を担い、「誰もが創造性を育み發揮する美術館・図書館」をコンセプトに整備された。

図書館は年中無休、コーヒーを飲みながら過ごすことが可能であり、美術館は体験型の企画やアートの領域を拡大し、今まで美術館を利用しなかった層の利用にもつなげている。

有効的な公共施設の活用や交流人口の拡大として広がりを見せる不知火美術館・図書館の事業を学び、本市の図書館建設の参考とするものである。

（3）鹿児島県枕崎市

・水産振興について

本市の石巻漁港は特定第三種漁港に指定され、多くの水産物が水揚げされる枕崎漁港と多くの共通点を有する。

また、枕崎市は、昔からかつおが多く水揚げされ、生産量日本一のかつお節は、300年以上の伝統があり、2013年にユネスコ無形文化遺産に登録され、和食の出汁として欠かせない存在であり、枕崎かつお節は全国の料理人に愛用されている。

同じ特定第三種漁港を有し、共通の課題である原魚の安定確保、水産・漁業分野での担い手の確保や漁場の資源管理（藻場の再生など）について、また、地球温暖化による魚種の変化やその対応などについて視察を行い、今後の水産業を推し進めるための参考とする。

※特定第3種漁港…特に重要かつ全国の漁船が利用する13漁港のこと

5 調査概要

（1）大分県日田市

・林業、木材産業の振興について

[日田市の概要]

○現状

大分県の西部、福岡県と熊本県に隣接した北部九州のほぼ中央に位置し、周囲を阿蘇、くじゅう山系の山々に囲まれ、山から流れ出る豊富な水が合流する日田盆地と緑豊かな

森林や丘陵地で市域が形成されている。

総面積約666.03km²で、人口は59,388人（令和7年10月末現在）。平成17年3月、1市2町3村が合併し、まちの中央を筑後川が流れ、周囲を山々に囲まれた盆地で、北部九州の交通の要衝として、江戸時代には幕府の直轄地・天領として繁栄してきた。

○日田林業の歴史

1491年	約500年前、日田地域で初めてスギが植えられる。
1700年～	江戸幕府がスギの「挿し木」を奨励、天領であった日田もスギの植林が盛んになる。
1884年（明治17年）	日田郡木竹商同業組合（現日田木材協同組合の前身）が発足。
1902年（明治32年）	大分県立農林学校（現日田林工高校の前身）が開校。電力を利用した製材所が操業開始。
1945年（昭和22年）	第2次世界大戦直後、九州各地から注文が殺到し、製材所が乱立。3年後ピークが過ぎ不況となるが、遠隔地への売り込みが活性化される。
1947年（昭和24年）	3代目市長が「文教さかんに、 <u>林工さかんに</u> 、観光さかんに」という施政方針を発表。大分県林業試験所など誘致。
1958年（昭和33年）	原木市場が次々に開設。木材の集積地となる。
1991年（平成3年）	風の被害で、人工林の2割（8,800ha）が崩壊状態となる。
1999年（平成11年）	木材関連企業が集積する「ウッドコンビナート」が完成。
2013年（平成25年）	「明日の九州の林業・木材産業を考える」をテーマに「第3回九州県際サミットin日田」開催。
2015年（平成27年）	「新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン」を策定

○日田市の林業・木材産業の特徴①〈川上〉

・豊富なスギの人口林資源

森林面積	55039ha（森林率82.6%）民有林約96%
森林経営計画策定率	79.6%
人工林割合	74.3%（スギ61%、ヒノキ16%、その他）
素材生産量	326,000m ³ ／年（大分県の約3割）
認定林業事業体	20社
林業従事者数	511人（国勢調査）※全国1位

○日田市の林業・木材産業の特徴②〈川中〉

・原木市場の発達

7つの原木市場→日田市森林組合、日田郡森林組合ほか
原木取扱量 738,000m³／年（市内素材生産量の2.2倍）

○日田市の林業・木材産業の特徴③〈川下〉

- ・専門化された製材工場と木材加工業集積地

　　製材工場数 54社

　　原木取扱量 530,000m³／年 (市内素材生産量の1.6倍)

　　製材品出荷量 293,000m³／年 (製品歩留まり55%)

木造住宅に換算すると約13,000棟分 (1棟22m³換算)

○「新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン」(日田もりビジョン)

- ・策定の経緯 平成25年7月「明日の九州の林業・木材産業を考える」をテーマに「第3回九州県際サミットin日田」開催に伴い策定の気運が高まる。
- ・策定に当たって：策定委員会（13名）4回、各部会（各13名）各5回、
　　ヒアリング28か所など

※委託コンサル：公益財団法人九州経済調査協会

- ・目的 人口減少社会を迎える社会生活を維持するためには、基幹産業の振興は欠かせないものであり、林業・木材産業がその役割を大きく果たす。日田市が目指す方向性を示し、林業・木材産業の基本的な指針を策定。
- ・位置づけ 日田市総合計画に基づく林業振興分野の個別計画とする。
- ・期間 13年計画（4年ごとの見直し）
- ・策定期日 平成27年3月（令和2年・令和5年に見直し）

○日田市の森林・林業・木材産業の現状と課題

〈森林の現状と課題〉 ⇒古い木が沢山ある

- ・11～14齢級（46年生～65年生）に偏った人工林の齢級構成
- ・適切に管理されてない森林の解消
- ・害獣による森林被害の拡大
- ・多発する豪雨・台風等自然災害への対応

〈林業の現状と課題〉

- ・主伐への本格移行と確実な再造林の実施
- ・素材生産力の向上と育林コストの低減
- ・素材（丸太）の生産・供給体制の確立
- ・分散する森林経営・施業の集約化
- ・林業就業者・林業事業体の確保
- ・特用林産物の振興
- ・スマート林業への対応

〈木材産業の現状と課題〉

- ・製材工場の販売力の強化
- ・木材性能表示と認証取得
- ・住宅着工戸数の減少による構造材需要の低下

〈その他の現状と課題〉

- ・健全な森林・木材サイクルの維持（木材カスケード利用の促進）
- ・森林・林業・木材産業の人材育成
- ・森林・林業・木材産業とまちづくりの一体化

○「日田もりビジョン」に掲げる日田市が目指す森林・林業・木材産業

- ・森林を守り・育てる…森林の適正な整備、保全を目指す
 - 〈取り組み〉 ①災害に強い森林づくり
 - ②資源・技術・雇用の循環を目指した主伐・再造林の推進
 - ③森林経営管理制度による森林整備の促進
- ・森林を活かす…ブランド化を進め、生産・販売の拡大を目指す
 - 〈取り組み〉 ①素材（丸太）の安定供給体制の整備
 - ②日田材の需要拡大・販売体制の強化
 - ③森林資源の有効活用の促進
- ・森林でつながる…森林・林業・木材産業を担う人材育成を目指す
 - 〈取り組み〉 ①市民の森林・林業・木材産業への関心・理解、保全活動推進
 - ②森林資源を活用した地域の活性化
 - ③森林・林業・木材産業を支える担い手の確保・育成

○「森林・林業・木材産業の再クラスター化」

「日田もりビジョン」の基本理念

地域にある数々の資源を生かして、関係する団体等がこれまでの産業集積をベースにしながら、さらに地域内外での横断的なネットワークを強化することを、産業の「再クラスター化」と位置付け、森林・林業・木材産業の振興を目指す。

（2）熊本県宇城市

- ・不知火美術館・図書館リニューアル事業について

[宇城市的概要]

○現状

宇城市は、熊本県のほぼ中央に位置し、美しい田園風景と都市的機能のバランスのとれた、水と緑豊かな市である。農業が盛んであり、米やい草、メロン、トマトなどが生産されている。人口は56,000人。

○不知火美術館・図書館の概要

- ・旧施設は、1999年に開館し、2022年4月リニューアルオープン。
美術館+図書館の複合施設は、九州では不知火美術館・図書館だけである。不知火（しらぬい）現象を表現した建築物はそのまま残し、内装を改装し、指定管理制度を採用し、CCC（株）に委託。

- ・熊本地震”復興”の拠点「みんなの家」を”未来につなぐ”ため移築し、こども図書館へ利活用

⇒こどもの成長を願う「こどもの絵本のいえ」

- ・9つのコンセプト…誰もが創造性を育み發揮する美術館・図書館
 - ①広場のにぎわい、②こどもの絵本のいえ、③ライブラリー&カフェ
 - ④図書カードをスマホで利用、⑤空間全体を使った企画展、⑥アートの敷居を下げる
 - ⑦施設利用のO P E N化、⑧ミュージアムショップ（地域の魅力紹介）
 - ⑨まちの人と共につくる
- ・不知火美術館・図書館の市民にとっての価値
 - ①居心地のよいLIBRARY & CAFE
 - ②市民参加型・体験型の開かれた美術館
 - ③子育て世代が、安心して休日を楽しめる場所
 - ④市民が主体となったマルシェやイベント
 - ⑤①～④を複合的に体験ができる場所

〈特徴 I〉 居心地の良い滞在型の空間 ライブラリー&カフェ

- ・開館時間

宇城市図書館：年中無休 9:00～21:00

こども絵本のいえ：年中無休 9:00～18:00

不知火美術館：年中無休 9:00～18:00（土曜日は21:00まで）

スターバックス：年中無休 9:00～21:00

- ・生活に密着したオリジナル分類

…資料の分類は「日本十進分類法」とオリジナル分類で管理

生活実用やレクリエーションに資する分類の資料は独自分類を採用

生活様式や行動を軸に分類を体系立てて整理

- ・図書カードをスマホで利用できる（国内先進事例）

…利用者の多いLINEを使用

日本にお住いの方であれば、だれでも貸出可能

【機能】①利用カード（マイポータル） ②本の検索～予約

③予約した本の入荷通知 ④分館の開館閉館情報

⑤お問い合わせ対応 ⑥周辺お店検索

〈特徴 II〉 市民参加型・体験型の開かれた美術館

- ・これまでの企画展

2022年O P	「未完星」	入場者5,805人
2022年夏	「かなたを読む：海と空の間のP」	入場者2,649人
2022年冬	「表現は日常にこだまする」	入場者1,335人
2023年春	「おかえりなさい、シスコさん」	入場者4,239人

2023年夏	「トイパラダイス：トイザウスのすむ楽園」	入場者11,811人
2023年冬	「不知火美術館コレクション展」	入場者844人
2024年春	「マナブ間部生誕100周年記念 マナブマベ・ツナグ展」	入場者2,330人
2024年夏	「つん 今日も「あなぐち」で生きていく」	入場者5,050人
2024年冬	「元寇750年特別企画展」 「小宮翔 海からやってくるものたち」	入場者3,122人
2025年春	「海にねむる館—働くがのこしたもの」	入場者1,223人
2025年夏	「いきて いる—コーダ・ヨーコと アドが描く生きものたち—」	入場者7,148人

- ・とびだすプロジェクト

美術館をとびだし音楽や作品をつくるワークショップを実施

- ・アートの敷居を下げ、興味を持ってもらう取組み

→親子で参加できるお絵かきワークショップを開催。直近の参加者83名

- ・施設利用のOPEN化

【課題】貸館・アトリエ

…何をやっているか分らない、一部の人しか使ってない

【取組】①壁は、ガラス張りのため、活動している風景を見る化

②活動風景をSNS告知

③活動誘致

〈特徴III〉子育て世代が、安心して休日を楽しめる場所「こどもの絵本のいえ」

- ・絵本のいえの壁には収蔵作家さんの作品が設置されており、不知火海をモチーフに、まるで絵本の世界にいるような世界観を体験できる。
- ・広場スペースは、子供たちが、活発に動き回ったり、家族でゆっくりと時間を過ごせる憩いの空間。

〈特徴IV〉市民が主体となったマルシェやイベント、居心地の良い広場スペース

- ・リニューアル後の実績

2022年 来館者数：48.1万人 貸出冊数：25.6万冊

2023年 同：43.2万人 同：27.4万冊

2023年4月16日 来館者数50万人突破

2024年6月23日 来館者数100万人突破

◆不知火美術館・図書館で目指すもの（社会教育施設としての役割）

「きっかけ」として、利便性・居心地・楽しさ・カフェ

→美術館：芸術を通して価値観に出会う

→図書館：読書を通して知識や思考に出会う

→誰もが創造性を育み・發揮する美術館・図書館

⇒宇城に住むことが素適・幸せ

（3）鹿児島県枕崎市

・水産振興について

[枕崎市の概要]

○現状

枕崎市は、鹿児島県薩摩半島の最南端に位置し、開港並びに無線検疫対象港の指定を受け、海外基地や南方漁場と消費地を結ぶ「南の水産物流加工拠点都市」を目指し、漁港機能の整備や地域高規格道路等流通機能施設の整備を進めている。

1707（宝永4）年に、森弥兵衛から鹿籠に節製造法が伝えられ、大正11年には内務省指定港になるなど、歴史深い漁港である。人口は18,942人（令和5年10月1日現在）。

○水産業の概要

・漁業組合員数 547人（令和6年11月30日現在）

・漁船隻数 登録漁船133隻（令和6年4月1日現在）

※5トン未満105隻、5トン以上28隻

うち遠洋鰹一本釣り漁船：地元漁船3隻

・漁業種類別水揚（令和6年1月～12月）

漁業種類	数量（トン）	金額（千円）
かつお類	35,081	8,965,851
まぐろ類	7,112	2,399,891
あじ類	5,114	934,644
さ ば	8,885	1,438,366
ぶ り	179	43,150
いわし	5,331	390,437
その他	4,572	536,170
合 計	66,304	14,708,509

※輸入水産物は輸入青物も含む。

・漁港領域

水域：約485万m²、陸域：約83万m²

・産業別販売金額

漁業 約147億円（令和6年）

水産加工業 約381億円（令和5年）

農業 約81億円（うちお茶約13億円 花卉約14億円）（令和3年）

工業 約497億円（令和元年）

商業 約271億円（平成26年）

・水産加工品生産量（1月～12月）※冷凍水産物を除く

	数量	金額
令和3年	27, 506 t	22, 659, 607千円
令和4年	25, 247 t	29, 132, 081千円
令和5年	28, 503 t	38, 146, 516千円

・鰹節産地入札・販売交流会実績 全国75%を占める

さつま鰹節産地 入札即売会	平成27年	177, 220kg	227, 119千円	1, 281円/kg
	令和元年	205, 091kg	238, 074千円	1, 161円/kg
さつま枕崎鰹節類 販売交流会	令和6年	25, 030kg	39, 044千円	1, 559円/kg

・漁船・船舶について

漁船数：133隻、総トン数：1, 984. 5 t

うち かつお一本釣り漁業：3隻、1, 497 t

一本釣りはえなわ漁業：98隻、185. 3 t

・枕崎港の水揚げについて（令和6年1～12月）

総計908隻、数量66, 304, 050kg、金額14, 708, 509, 274円

うち 地元船：111隻、3, 533, 114kg、748, 376, 832円

外来船：797隻、62, 770, 936kg、13, 960, 132, 442円

・かつお船籍別別水揚状況（令和6年1～12月）

総計68隻、数量42, 334, 086kg、金額11, 313, 239, 913円

うち（主なところ）枕崎4隻、826, 280kg、306, 606, 826円

宮城11隻、3, 008, 722kg、736, 771, 609円

静岡16隻、15, 206, 327kg、3, 968, 206, 350円

外国籍18隻、13, 763, 206kg、3, 784, 433, 184円

輸入4隻、225, 300kg、38, 615, 553円

・枕崎港の工事概要

平成14～22年	広域漁港整備事業（一般）	1,190,000千円
平成23年～	水産基盤機能保全事業	198,100千円
	広域漁港整備事業（特定）	4,345,704千円

6 所 感

（1）大分県日田市

・林業、木材産業の振興について

林業が基幹産業である日田市の取組は、江戸時代の天領の流れから、森林を貴重な財産と捉え、歴史とその営みの様子が感じ取られた。山林の8割が森林管理計画に包含され、森林所有者は手出しなしで森林組合等に委託し管理されている。

市民から森林・林業・木材産業の理解を得るために、森林環境税譲与税を活用して様々な、林業アカデミーの開設などきめ細かい事業を展開している。特に、市内の小中学校机・いす更新事業は、将来を担う子供たちに向けて、普段使っている学校の机や椅子を通して地元の産業を理解する絶好な機会であると感銘した。

日田市の玄関口の「日田駅」も木をふんだんに使った駅舎であり、日田駅からの移動する特急列車「ゆふ」号の車内は昔ながらの「木材」を使った座席やインテリアであり、木のぬくもりが伝わった。

基幹産業である「林業」にかける意気込みは、説明を受けた「日田もりビジョン」で十分理解ができ、本市の森林環境をはじめとする林業振興に大変に参考となった。日田市が一番力点をおいている「木育（もくいく）」を十分に感じ取ることができた。



〈 日田市議会議場 及び 日田駅 〉

（2）熊本県宇城市

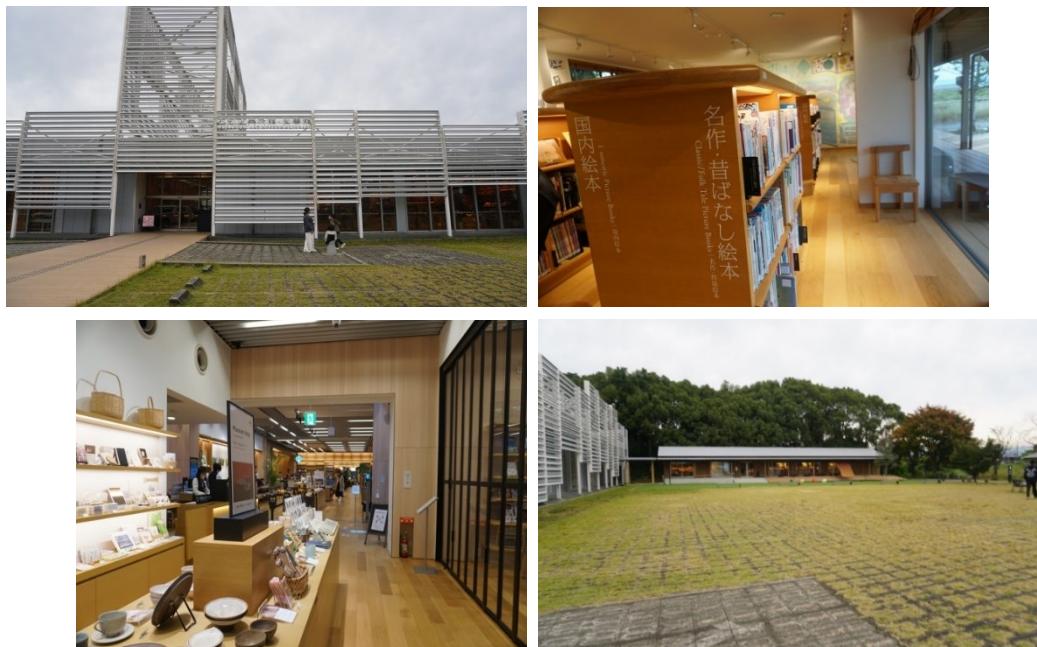
・不知火美術館・図書館リニューアル事業について

宮城県下の図書館で話題を集めているのが多賀城図書館である。偶然にも不知火美術館・図書館を受託している団体は、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（CCC）であった。

同社では東日本大震災での経験の中から、熊本地震の対応に使用した仮設住宅を施設内に移設し「子どもの絵本のいえ」として開設した。震災経験から生まれた市民が自由な

空間、そして、賑いを創出した不知火美術館・図書館に感服した。また、現状維持的な復旧・復興に誇示する役所的発想を民間の発想に着目した宇城市的英断に敬服したい。

同館を訪問し、その居心地の良さを感じ、思わずコーヒーを注文し、他の利用者と同じ空気に馴染んだ心地よい空間は心地よいものであった。いつの日か、このような施設が出来ることを心待ちにしたいと感じた。



〈不知火美術館・図書館 及び こども絵本のいえ〉

（3）鹿児島県枕崎市

・水産振興について

鹿児島中央駅から枕崎線により移動すべきところ、枕崎線の便数が少ないため鹿児島中央駅から路線バスにより約1時間半で、最南端の駅枕崎駅前に到着した。バス停まで枕崎市議会の職員の出迎えを受け、水産センターを見学し、研修場所である枕崎市漁業協同組合会議室案内された。

眞茅弘美市議会議長様はじめ関係者から歓迎を受けた。特に、同じ第3種漁港ということで、当市議会遠藤宏昭議長からも眞茅議長に「よろしくお願いします」との依頼があり、双方和気藹々の雰囲気の中での視察であった。

市街地に海が広がり、中央に枕崎漁港がどっしりと構え、枕崎市を支える産業拠点として、市民と共に息づく「水産都市枕崎」を感じ取ることができた。特に、人口18,000人という小都市ではあるが、鰹節を中心とした海と共に生き、最南端の地で暮らすという地域性が醸し出す「おもてなし」の心が通う市民生活に触れ満足感が沸いてきた。地域に誇りを持つということが、どんなに市民生活を豊かにすることになるか、改めて考えをあらたにした。

本市も水産都市の「海に生き、海の恩恵を受ける」という点について、枕崎市と同様、地域に誇りを持てるようなまちづくりを目指したいと思った。

〈 枕崎市漁業協同組合冷蔵庫 及び 漁業協同組合 〉



7 調査による本市への政策提言等について

(1) 大分県日田市

・林業、木材産業の振興について

「山あり 川あり 海あり」と自然に恵まれ本市ですが、その自然の恵みの恩恵により、産業経済が発展してきた。それがゆえに、本市の産業振興において、悩ましい問題があるのではないか。「有るもの活かしきれず、無いもの求めきれず」、総花的な行政運営になっていないか。日田市のように林業1本に傾注することは容易だと思うが、その活用や運用の熱量が大切である。その熱量は、現場を良く知っているかどうかで熱量の大きさが決まる。

これまで同僚議員や私は、一般質問において農林課は、農業や林業が盛んな河北総合支所に配置すべきだと提言してきた。河北総合支所には農業委員会があり相談窓口の1本化にも繋がる。また、水産課は魚市場に配置し、魚市場管理事務所と統合すべきとも提言した。どのような船が漁を終え入港し水揚げされているのか、それがどのように流通しているのか、一目瞭然でかつ養殖業の現場に近いほうが合理的である。

「孟子」の言葉や大河ドラマでも取り上げられた「天地人」と言う言葉を本市でも再認識していただきたいと思う。

「天の時 地の利 人の和」

天の時：合併から20周年を迎えた今、行財政改革の時では

地の利：豊かな自然をどう利用するか

人の和：旧市町の職員をどう融和させ、行動頭脳集団にするか

まずは、産業部の農林課、水産課の拠点の再配置を提言する。

（2）熊本県宇城市

・不知火美術館・図書館リニューアル事業について

全国的な少子高齢社会は自治体の大きな課題であります、裏を返すと、少子化、高齢化の中、市民が安心して暮らせる政策、楽しめる施策を探究するのがこれからの行政手腕だと思う。だからこそ今後は、費用対効果を十分に検討して、事務事業の厳選、選択しなければならない。

図書館は、少子高齢化の社会にやすらぎとゆとり持つことができる行政には欠かせない公共施設である。建設費や運営費についての財政負担は、今回視察した不知火美術館・図書館のようにやり方一つで道が開けると感じるため、数ある市民要望の中でも、図書館建設を早急に検討し、実現することを提言する。

（3）鹿児島県枕崎市

・水産振興について

港町は、今回視察した枕崎、県内では塩竈、気仙沼のように市街地に港があり、市民がいつでも港を見ることができる。魚の水揚げ、漁船の出入港が市民生活の一部になっているのが通常である。

しかしながら本市は、郊外に漁港や魚市場があるためか、地場産業である水産業は、市民生活にとって遠い存在になっているのではないか。そのハンデを払拭する意味でも、市の玄関口である石巻駅前の大型ビジョンを設置し、市民に早朝の水揚げ状況や稻の収穫、寒風の中旬のセリを収穫する様子などを「今日の石巻」と題して上映し、市のHPにも旬な情報を提供してはいかがか。

また、枕崎市の視察において、行政と漁業協同組合との連携に感銘を受けた。行政と関係団体と綿密な連携が産業振興に不可欠であると思う。漁船誘致に際しても、枕崎市では、誘致側の一方的な物品の配付を廃止し、漁船乗組員が寄港して「何が欲しいのか、必要なのか」を調査して、心のこもった物品を渡すという「おもてなし」の最前線で活動しているようである。

今後の産業振興において、次の3点について提言する。

- ①広報広聴活動の充実（前述の大型ビジョンやHPでの広報）
- ②関係団体との連携強化（漁協、農協等との情報交換を頻繁に行う）
- ③地元愛の育成（地場産品の消費拡大などで地域に誇りを持つ）

8 調査経費 272,687円

9 添付書類 別添資料のとおり